

《資 料》

ザクセン「九月騒乱」期の同時代パン フレットにおける農業・土地問題(Ⅱ)

松 尾 展 成

7. F[riedrich] A[ugust] Rüder, *Der Drang nach einer bessern Verfassung und wohlthätiger Erweiterungen der Nahrungsquellen in Sachsen mit Bemerkungen über Badens Verfassung und manche Andeutungen für andere werdende Verfassungen*, Leipzig, Glück ⁽¹⁾ 1831.

著者(1762—1856)は法律を学んだ後1792年にオルデンプルク大公国の官吏となったが、文筆活動で知られている。1821年にはライプツィヒに居を移した。⁽²⁾本書の他の部分で著者はバーデン憲法を模範としており、⁽³⁾後の著作では、『時代の要求に十分に適応していない』としてザクセン憲法を批判している。⁽⁴⁾

憲法への『熱望はザクセン住民の次の三階級においてとくに明白である。』『第一の階級は、恐らく不必要な多くの公職に就いており、農場領主(Gutsherren)、薬剤師、多くのツンフトの親方などのように冗職(Sinecuren)と特権(Privilegien)を保有している。増大した人口と、他人の土地における放牧(Hut und Weide)の法律による拡張という事情の下で…旧い封建的憲法〔封建体制〕(Feudalverfassung)がこの階級に繁栄を保証したのである。⁽⁵⁾もっとも、例えば、休閒地(Brache)と農場領主によるその部分的利用という支配の原理は明らかに、土壤と気候の成長力の最高に自由な利用にとって不利益であるけれども。50年前にホルシュタインの人々が耕圃(Felder)の囲込み(Einkoppelung)をほとんど完成した後にその泥灰土施肥(Märgeln)を開始し、いたるところで油用作物(Oelsaaten)、クローヴェ(Klee)と小麦の栽培を非常に拡大し、乾草と藁の収穫増のために……酪農場(Milchwirtschaft)を拡張した時、ザクセンでは輝かしいメリノ羊の飼養が始まり、農場領主と農民はその羊を増加させ、他の農民の休閒地と

採草地（Wiesen）における放牧を一層厳しく行使し、祝福された農耕（Landbau）に対
するこの障害の償却は非常に困難にされた。多数の隣人の所有地を互に仕切っている多数
の畦でさえも、放牧（Weide）に権利を持つ農場領主にとって貴重なものとなった。』（S. 1—2.）

『耕作されている農用地（Fluren）はザクセンでは多数支配の下で然るべき境界なし
に三つの耕圃に細断されていた。農民の耕圃と採草地は、偶然にも保有者の土地が分散し
すぎていないところで以外は、改良されることが稀であった。しかし、騎士領の耕圃はよ
く改良された。騎士領は羊牧、醸造場、火酒醸造場の拡大のためにその土地に従前以上に
施肥しえたからである。勇気のない農民は休閒地の中でのクローヴァと稗耕作物（Hack-
früchte）の栽培地の拡張を達成せず、通常は貧困なままであった。それに対して、ホル
シュタインの世襲借地人（Erbpächter）たる農民は騎士領（Rittergutshöfe）の所有者よ
り早く、有利な泥灰土施肥を我がものとし、共有耕圃（Feldmarken）の分割の場合に農
場領主と同じようにその土地を団地化（bei einander legen）し、囲い込む（einfriedigen）
ことに努めたのである。それ以来、騎士領における農奴制、御料地（Domainen）におけ
る隸農制（Hörigkeit）、および前代からのあらゆる奉公強制（Gesindezwang）から解放
されたホルシュタインは、大量の穀物とくに小麦、燕麦、菜種（Rapsaat）を輸出し、榮
養の向上した牛の増加と品種改良によって従来より多量の肥料と酪農製品を輸出のために
獲得した。もちろん、1平方マイル当りの人口が2,500人を超えないこの国は、ザクセン
の生産物高価格を知らないが、土壤と農業のあらゆる改善の勇気を知っている。もちろ
ん、この改善を1818年から1827年までの穀物その他多くの生産物の低価格は阻んだが、粉
砕することはできなかったのである。ザクセンで三圃式農法（Dreifelderwirtschaft）
が他人の土地でのさまざまな地役権を伴って存続する限り、個々の保有者の耕圃が現在ほ
ど分散している限り、ザクセンは農業生産全体においてドイツ北部の海岸と対等になるこ
とはできないであろう。ザクセンの気候は北ドイツより温和であり、国民自体は大体にお
いて農耕（Feldbau）に関しても一層開化されているけれども。また、ザクセンの日賃金
は一層低く、個々人は北ドイツ人と少なくとも同じ程度に勤勉であるから、ザクセンの然
るべく利用される土地は一層大きな収穫をもたらさうするけれども。』（S. 2—4.）

『1830年8月13日の最新の指令（Verordnung⁽⁷⁾）は農場領主に対する農民諸義務の償却
をもたらすべきであった。しかし、償却はいかなる基礎の上で行なわれるか。』確かにザ

クセンのスラヴ人は、征服者たるキリスト教徒に対する賦役（Dienst）の義務があった。

『しかし……農場領主に給付されたこの賦役義務は現在より軽微なものであった。』『現在ではほとんどすべての農場領主が〔例えば建築賦役（Baufrohnde）として〕大小の宮殿、酪農場に……必要なものとしての氷室、また、彼が多かれ少なかれ独占権（Monopolrechte）を持つ醸造業者、火酒醸造業者、漁業者、石灰焼成業者、泥炭採掘業者、煉瓦製造業者となって以来、従前とまったく違った農舎、納屋、厩舎を要求する。……領主裁判権の保護の下で雪球のように成長した一つの権利の免除に対して数百ターラーを馬保有農（Pferdner）と手賦役農（Handfrohdner）から要求する騎士領が存在するであろう。』（S. 5—6.）

『隷農（Hörige）の子供の強制奉公はもちろん、あの指令においては賃金の引上げによって軽減されたが、貧しい奉公人と日雇の過剰の下では政府は隷農をこの奉公から完全に免除しえた』であろう。『農場領主は戦時における騎士勤役から解放された』のに対して、また、『ナポレオンの時代以後徴兵（Conscription）はすべての若者の義務とはなっていない』のに対して、『彼が、農場領主からすれば、何の害もなく無くて済ましうる奉公強制から決して解放されるべきでない』のはなぜか。ドイツ『連邦議会は連邦の一つの邦から他の邦へのドイツ人の移動が自由であると表明した。連邦議会制定法の起草者は貧民を除外しなかった、したがって奉公強制も……消滅しえた、と考えられる。』（S. 6—7.）

『農場領主のために留保された』警衛（Bewachung）も『平時には不必要』である。『城の濠の蛙の鳴き声が農場領主の夜の平穩を乱さないように、蛙を賦役（Hofdienst）として釣らせるというラングドックの農場領主の権利を、フランス国民議会が廃止したと同じように合法的に、人はこの権利〔警衛〕を廃止しうるであろう。』（S. 7—8.）

『将来の償却がああ指令に基づいて行なわれるならば、農民は償却の幸福を願わないであろう。農場領主と農民が両者に一層有利な基盤の上に立つべきであるならば……レーエン制全体および公課・賦役関係は国家だけの費用でもって改革されねばならない。もちろん、この着想の実施——そのみがザクセンの傷を治しうる——はきわめて公正、勤勉で私欲のない委員を必要とする。プロイセンが我々に提示した模範は適切である』が、この委員は『全く未耕の土地に足を踏み入れるのであり、できる限り土地の価値を規定し、補償を発見し、農民労働の真の価値を評価する技術を創始』しなければならない。そうすれ

ば、『この委員と全国委員会（Generalcommission）の努力の成果は数世紀後にもなお祝福されるであろう。』（S. 8.）

『商業と工場制工業（Fabrikindustrie）を生成・奨励するための政府のすべての計画は一時的利益をもたらすにすぎないが、土地のあらゆる改良は恒常的利益をもたらす。⁽⁹⁾』ベルギー繁栄の基礎は商業ではなく、土地にある。『土地を改良せよ。そうすれば、人は悪意ある隣国の一切の通商制限に長きにわたって耐えることができるのである。』（S. 9.）

『農村の諸関係は次のようにして改善されう。 (1)それと同じだけの土地が世襲賃租によってあるいは世襲借地的に農民に再び貸し出されないのであれば、農民保有地の没収（Einziehen）と主農場（Hauptgüter）へのその統合を制限することによって。 (2)すべての隸農制・農奴制が買戻金（Freikaufgeld）なしで廃止されることによって。雇人（Miethlinge）も、とくに農場領主のために日雇として働き、農場領主のためにこまごました賦役を無償で果たすという義務から解放されねばならない。 (3)農民の公課が、踏み越されえない一定の程度に定められること、しかしながら、農民社会（Bauergesellschaft）全体はその耕圃、採草地、森林の $\frac{1}{3}$ の譲渡により、あるいはこの $\frac{1}{3}$ に地代として利子を付けることにより、農場領主へのすべての給付から解放されうることによって。 (4)農民に保有地の世襲的保有を少なくとも希望として与えることによって。 (5)農場領主への補償と引換えに世襲的保有を自由な所有に転換することによって。』（S. 9—10.）

『これらすべての処置において国家は御料地において先導し、その模範によって他の農場領主に改善への道を示せ。』プロイセンでは『それによって害を受けた者はなく、多くの者が得をした。』『自己の連畜（Gespann）による経営は騎士領の耕種（Ackerbau）を向上させる』からである。（S. 10.）

『農場領主と義務者との間での水車、貧民、教会、学校に関する諸負担の重要な調整（Regulirung）が一般的に行なわれるべきである。』（S. 11.）

ところで、『第二の階級〔『教養ある中産階級』（S. 11）〕に同感しつつ第三の階級はその一致した願望が達成されるのを予感している。この階級は我々の時代の多くの困窮と苦悩、国家と自治体への重い公課と闘っている。また、商工業者（Gewerbtreiber）の増加によって、隣国との通商の混乱によって、従来の行政の怠慢などによって大抵の営業において生じた生業の衰退と闘っている。最も甚だしく圧迫されているのは小地所をもつ農民と日雇とであるが、彼らは決して最も声高に訴えはしない。正に農業の分野において、

改善されうるものが最も有効に処置されねばならない。実現したものは最も小さかった〔からである〕。多数の失業者が入念な農耕に対する障害のために商業と工場制工業に駆り立てられたけれども、とくにザクセンでは農業は従来以上の労働者を養うための広大な領域である。』(S. 14.)

『(1)ザクセンの多くの地方には……定住されていない共有耕圃がある。これらの耕圃は耕作者から遠く離れているために十分には利用されず、安価に売却されている。……これの耕作は、国家、それによって各層の富裕な領民を獲得する国家、の費用によって再建されねばならないが、それが行なわれる前に、全共有耕圃が交換によって……各保有者の持分が一ヶ所、最高二ヶ所⁽¹⁰⁾にまとまるように調整されねばならない。必要なこの所有地売買はすべての保有移転賃租(Lehngelder, Laudemien, Umschreibungsgelder)を免除されねばならない。統合されて再び定住されるこの土地の保有は将来はそのことのために、また内部的改良のために価値が上昇し、そうすれば、保有移転はレーエン領主(Lehnsherren)にとって一層利益あるものとなる』からである。『団地化された土地のこの保有者は、ベルギー、イングランド、ホルシュタイン方式に従って耕圃と採草地を区分して囲い込む決心を早くすればするほど、ますます繁栄するであろう、と私は予見する。しかし、囲込み(Einfriedigungen)の方式は土壌の性質に従わねばならない。また、すべての地所は地役権を全く免除されねばならない。』(S. 15—16.) (2)ザクセンの多くの地方には、樹木の生えていない山地がある。そこに植林して、12年間は家畜放牧(Viehtrift)を禁止せよ。そうすれば腐植によってその耕地化が可能となるであろう。(S. 17.) 『(3)現在、行き過ぎた土地分割が訴えられるが、それは、あらゆる耕圃、あらゆる園地(Garten)が個別的な囲込み——囲込みの費用は小地片の場合には大きくなりすぎるであろうから——を許される場合には、自ら消滅する。⁽¹¹⁾なぜなら、改良された果樹・野菜栽培、養蜂、意味のある亜麻・大麻・茜草栽培などが生じないではないからである。』『耕圃の深耕(das tiefere Bestellen)は収穫を改善し、小保有地におけるスペイド(Spaten)による農耕と牝牛による犁耕(Pflügen)が組織化され、工場制工業よりは土地で生活する住民において一層繁栄が生じる』であろう。(S. 18.)

(註)

(1) Reinhardt, a. a. O., S. 8, 280 ; Rudolf Bemmman, hrsg., *Bibliographie*

ザクセン「九月騒乱」期の同時代パンフレットにおける農業・土地問題（Ⅱ） 195

der sächsischen Geschichte, I/2, Leipzig und Berlin 1921, S. 11 ; A. Schlechte, a. a. O., S. 113 ; Eichstädt, a. a. O., S. 160.

- (2) ADB, Bd. 29, S. 455. そこには、ザクセンに直接かかわる著作は挙げられていない。農業・土地問題に関連すると思われるのは、*Blicke in das Ständewesen und in die Entwicklung der Landes-und Gutshoheit in Holstein*, 1810, であり、1831年に *Allgemeine landwirthschaftliche Zeitung* を編集したことである。
- (3) Eichstädt, a. a. O., S. 57.
- (4) “Kritische Bemerkungen über die Verfassungsurkunde des Königreichs Sachsen vom 4. September 1831”, *Archiv für die neueste Gesetzgebung aller deutschen Staaten*, Bd. 1, Mainz 1832, zit. in : Eichstädt, a. a. O., S. 63. Vgl. Reinhardt, a. a. O., S. 252. なお、著者にはそのほかに (i) *Erwartungen vom mitteldeutschen Handelsvereine und dem Casseler Congress*, Ilmenau 1828. (ii) *Einige Worte über den Entwurf der am 1. März 1831 den Landständen übergebenen sächsischen Verfassungsurkunde*, Leipzig 1831. (iii) “Über den neuesten Finanzstand und das Staatsschuldenwesen in Sachsen und in den thüringischen Staaten”, *Der Nationalökonom*, Jg. 3, Mannheim 1836, がある。
- (5) 『賢明な法律は全ドイツ中ザクセンのみで騎士領に高い市場価格を保持した。騎士領は……農民その他の国民に対して犠牲を供えねばならないであろう。可能なかぎり騎士領に……損失を補償することが聡明な政府と公正な邦議会の困難な課題である。』(S. vii—viii.)
- (6) 『ザクセンにおいて支配的となっている工場制工業は、ホルシュタインとメークレンブルクではほとんど全く知られていない。』(S. 5.)
- (7) 本稿（Ⅰ），本誌5巻1号，132ページ註(2)，参照。
- (8) もちろん、『プロイセンでのように、過大な費用によって親切な政府のこの最も適切な事業がある程度日陰に置かれることになってはならない。』(S. 11.)
- (9) 『我々も他のすべての国々も商相、経済・商業委員会 (Oekonomie und Commerz-deputationen) を持っている。農業より包括的な生産 (Fabrikatur) は存在しないけれども、上級農業官庁 (Oberackerbehörde) を持つ国は少なく、国家の主たる繁

業を耕種の改良に見る内相を持つ国は稀である。』(S. 15.)『我々は我々の工場制工業の全部に対して、我々のメリノ牧羊場に対してさえ、並はずれた期待を懷きはしなかった。農業的目的のための土地改良は立法の注目をほとんど惹かなかった。』『賢明な憲法の規定からも、商法・工業法の改正からも人はザクセンの将来の救済を期待せず、むしろ、最高に合理的な農業法典からそれを期待した。市民的自由の拡大は上流・中流市民階級の楽しい理想であるが、それは貧困な生活を送る多数の人々——彼らは高地に住めば住むほど圧迫されている——に訴えるところがほとんどない。』

(S. vii.) Reinhardt (a. a. O., S. 280) は「彼〔ザクセンの農民〕が一揆〔九月騒乱〕に参加した時、彼にとっては、のしかかる賦役の軽減、共同地分割その他の問題が重要であった。彼はそれの是正を願った。」と述べ、そこにこの一文を註記している。

(10) 耕圃と採草地。(S. 16.)

(11) 『ホルシュタインではこのことが、今では全く一般化している 播種耕圃の団地化 (Verkoppelung) と共同地の分割の後で、正しいと確証された。』(S. 18.)

8. [George Friedrich Wiesand,] *Die Königlich-Sächsische Ober-Lausitz nach ihren gegenwärtigen Landständischen und Unterthanen-Verhältnissen, in Bezug auf eine Constitution des Königreiches Sachsen*, Dresden, P. H. Hilscher'sche Buchhandlung, im März 1831.⁽¹⁾

1831年のザクセン憲法は第1条で、同王国が「一つの憲法の下に統合された」邦であると規定した。しかしこれは決して現実ではなく、達成されるべき目標であって、これに関する最も困難な課題は「その憲法において他の地域とまったく異なるオーバーラウジツ」を統合することであった。国王に委任された無任所相 Hans Georg von Carlowitz は⁽²⁾ 1832年1月にオーバーラウジツ等族の代表団と協議を開始した。オーバーラウジツ等族の地域的特権の喪失を最小限にとどめようとする代表団に、代表代理として加わり、等族の主張に史料的根拠を与えたのが、この小冊子の著者たる博士 Wiesand (1777—1842) である。彼はパウツェン近郊の騎士領 Jessnitz の領主で、1831—40年にはザクセン国会議員に選出された。⁽³⁾

922年に皇帝ハインリヒ一世によって征服されたオーバーラウジツのゾルブ人^o (Sorben-Wenden) は、新しい領主となったザクセンその他の騎士に服属することになり、領主から住居と食料を与えられ、それに対して『毎日の賦役』をはたさねばならなかった。しかし、1649年以来オーバーラウジツの等族が領民のために行った提議と君主によるその承認の結果として、『現在ではオーバーラウジツの領民はすべての市民的権利を、今なお存続する世襲隸民制によってそれが制限されないかぎり、完全に保有』している。(S. 22—24.)

『不法にも、そして、現在の実情に対する無知から農奴制と表示される……この世襲隸民制は主として次のことから成り立っている。(1)世襲隸民 (Erb-Untertan) は世襲領主 (Erbherr) の許可なくその裁判権〔領域〕の外に定住してはならないこと。(2)この場合には彼は身請け金 (Lösegeld) を支払う義務があること。(3)彼は許可証 (Gunst-Schein) ——これが世襲領主によって拒絶されることはない——なしには余所で奉公してはならないこと。(4)彼は……毎日の、あるいは一定の高さに限定された賦役をはたさねばならないこと。(5)彼の子供は、本領地域でも従来慣例的であった強制奉公 (Gesinde-Zwangs-Dienste) を義務付けられること。』『この世襲隸民制に関しても現在では、寛大な原則が支配』しており、『数多くの祭日その他の免除によって非常に制限された賦役は、ザクセン王国の本領地域の賦役と事実上というより名目上で異なる』のみである。しかも、『すでに1829年にこの地方の等族によって……さまざまな法律の素材が君主の承認を求めて提出された。それによって(a)世襲隸民制と奉公強制が廃止され、(b)新しい奉公人条令が制定され、(c)賦役・地役権の償却と共同地分割が……許可されるであろう。⁽⁴⁾』(S. 24—25.)

そして、『これらの法律が〔君主の〕承認を得るならば、本領地域の領民とオーバーラウジツの領民の間に従来あった最後の差異は消滅する』であろう。(S. 26.)

ところで、オーバーラウジツは僅かの例外を除けば、もっぱら騎士領の土地から成り立っている。『これらの騎士領は、それに帰属するすべての権能とともにその所有者によって取得された。これらの権能は、投下された資本の一部分をなすのである。したがって、これらの資本価値を維持する……ことは、この地方にとって……最も重要』である。(S. 32.)

(註)

- (1) Böttiger, a. a. O., S. 654 ; *Katalog*, S. 178; *Anonymen-Lexikon*, Bd. 3, S. 224; Reinhardt, a. a. O., S. 10 ; Bemmann, a. a. O., II, S. 142.
- (2) (1772—1840)。1827年ザクセンの枢密顧問官, 31年無任所相, 34年内相, 36年文相。枢密院に提出された彼の憲法草案はリンデナウのそれより保守的であった。G. Schmidt, a. a. O., S. 114 f., 138 f. 土地改革前史との関連については, Vgl. Gross, *Sachsen*, S. 64 f., 71 f., 177.
- (3) G. Schmidt, a. a. O., S. 178 f., 342. Vgl. Göpner, a. a. O., S. 89 f. 彼はオーパーラウジツの地域的特権に関連して大著を書いている。 *Beiträge zur gründlichen Beurteilung der besonderen staatsrechtlichen Verhältnisse der Königl. Sächs. Oberlausitz, auf Grund der vorhandenen Verträge, Urkunden und anderen Quellen, mit Rücksicht auf die Konstitution des Königreiches Sachsen*, I. Teil, Kamenz 1832.
- (4) Vgl. Böttiger, a. a. O., S. 654 ; Reinhardt, a. a. O., S. 51 ; Boelcke, a. a. O., S. 280—282. ; Johannes Solta, *Die Ertragsentwicklung in der Landwirtschaft des Klosters Marienstern*, Bautzen 1958, S. 48 f. ; Gross, “Oberlausitz”, S. 10 f.

9.〔Mori(t)z Erdmann Engel,〕 *Die Geschichte von den zehn klugen und den zehn thörichten Bauern bei der Frohn-und Dienstbarkeits-Ablösung. Nebst einem Nachworte über das Königlich-Sächsische Ablösungsgesetz. Zur Warnung und Belehrung treumeinend mitgetheilt von einem aufrichtigen Bauernfreunde*, Leipzig, durch Schaarschmidt und Volckmar 1832.⁽¹⁾

著者 (1767—1836) はプラウエン (Plauen) の聖職者。農業の研究にも力を注いで、多数の著作を発表した。また、「経済協会」(ökonomischer Verein) の創設に参画し、その書記として活躍した。⁽²⁾

『祖国の農耕が圧迫的束縛から解放されることは、はるか以前から、その興隆に対し

て国家一般のために、とくに農民（Landbauer）のために関心を寄せていた者すべての希望であった。』そして、ついに『我々の時代は……この恩恵をもたらした。』『従来非常に重荷を負われ、束縛されてきた農民もこれを喜ぶ』であろう。ただし、『彼が事態を法と彼自身の利益の光の中で認識した時にのみ』そうであろう。『私がこの小冊子によって彼に助力しようと思うのは、このためにばかりでなく、今一つの、そして一層重要なことのためにでもある。すなわち、彼に与えられた良きものは、彼が彼の農業の一層良い調整と管理に努めた時にのみ、彼にとって真の良きものとなりうる……との論証を得るために。』『プラウエン市教会副牧師（Diakon）、フォークトラント農業協会（voigtländischer landwirtschaftlicher Verein）書記』である『私は、騎士領所有者ではない……から、人は少なくとも私の利己的な不公平を責めることはできない』であろう。（S. 3—4.）

この序言に続いて著者は一つの『物語』を書く。『好意ある君主が自発的に、賦役と地役権（Dienstbarkeiten）の償却によって農耕を古くからの圧迫的束縛から解放し、農民に彼の農業（Wirtschaften）の一層自由で利益ある経営を与えることを……公示するやいなや、』『廉直な』一騎士領所有者は『彼の20人の農民（Bauern）と10人の小屋住農……にこの国父の指令を知らせ、その利益を彼らに説明し、ただちに償却さえ提議した。しかし、貧しい小屋住農は旧いままにしておくよう望んだ。手賦役（Handfrohen）のための時間と能力が、それを買い取るための貨幣より彼らの自由になったからである。そしてこれは、最も不快にも労働のための人手に事欠くであろう領主（Herr）にとって、まことに好ましかった。しかし、農民たちは即座にそれを承諾した。』そこで償却の仕方・様式が問題になった。『政府官庁の援助と指導の下でか、それとも、示談（gütliches Uebereinkommen）によってか。』それについて農民たちは、領主が『最も簡単で最も迅速、また最も廉価な』方法として勧めた示談（gütliche Vergleichung）をよしとする者と、それに反対する者へと分裂した。（S. 5—6.）

農民から助言を求められた一弁護士は『穏便な手段と一切の妥協との不倶戴天の敵』であったので、次のように述べた。『君たちのしっかりした権利は確証されており、法的にも完全に君たちに与えられる。法律は傘と楯であり、不法に獲得されたものおよび従来違法に保有されたものに対しては補償は全然問題になりえない。……好機に闘い、勝ちたいと思う』と。（S. 6.）しかし、別の『公正で冷静な』弁護士は異なった見解を述べた。す

なわち、『君たちが権利者に、取り除かれるべき賦役と諸負担に対して何の補償も与える必要はない、と言った者は空しい希望で君たちを欺いている。というのは、あれが通例であるとすれば、法律は償却についてではなく、正に廃止について述べたであろうからである。君たちは大抵の所領特権（Gutsgerechtsame）の起源を正當に考慮しなければならない。すなわち、太古に騎士はその軍役奉公に対して君主から一定の広さの土地を……授封され、……国家の一般的負担を大きく免除された。しかし、あの土地は……あまりに広かつたので、彼らはその一部をレーエンとして他の者、したがって君たちの先祖に無償で、ただし、当時非常に低かった土地の資本価値に、一定の保有移転賃租、賃租（Zins）、畜賦役、手賦役、家畜放牧の許容などによって利子を付けるという義務と引換えに、譲渡した。もちろん君たちは君たちの地所を、相続によってにせよ購入によってにせよ、無償で得てはいない。しかし君たちはそれを引き受ける前に、それに課される諸負担を知っていたし、後者なしでは君たちがはるかに高い価格でそれを引き受け、あるいは購入せねばならなかったであろうこと、したがって、賦役として給付すべきものを貨幣利子として節約したこと、を見落してはならない。同様に君たちは、あの諸負担が無くなれば君たちの保有地ははるかに高い価値を持つことも理解している。権利者も君たちと同一の事情にある。なぜなら、騎士領の後の所有者は正にこの特権のためにそれを一層高価格で獲得せねばならなかったし、彼らの地所はそれの廃止の際には著しく価値を失い、経営組織（Wirtschaftseinrichtung）はまったく別のものにされ、一層多くの奉公人（Gesinde）、日雇、家畜、道具（Schiff und Geschirr）が保有され、君たちが従来無償で与えねばならなかったものが今や自身の資金から支弁されねばならないからである。さて、多くの農民保有地（Bauergüter）の以前の保有者も自分の土地の余分のあるいは遠すぎる部分を、購入資金を持たぬ小屋住農に、貨幣あるいは貨幣価値、手労働などの年々の給付と引換えに譲渡してきた。君たちがこれにあてはまるとして、あの小屋住農が、あの譲渡〔地〕に付いている、未払の資本に対する正當な利子を君たちに拒絶し、あるいは無償で完全に君たちから奪取しようとするならば、君たちはそれを正當と考え、甘受するであろうか。確かに否、である。……その上に君たちは、償却においては利益は正に君たちの側にあることも忘れてはならない。君たちは従来他人の所有地に捧げねばならなかった時間と能力を今や自分自身の土地の一層良い耕耘（Bearbeitung）と利用に自由に用い、ますます多くの利益をそれから引き出しうるのである。』そのために彼は示談（gütliches Privatüberein-

kommen)を勧めた。(S. 7—8.)

そこで農民たちの一半は政府機関の介入を要請して、領主に次のように申し入れた。『我々の君主の好意はできる限り速やかに実施されねばならない。なぜなら、我々の祖先と我々は不法な重い負担を十分に長い間負担してきたからである。しかし、有難や、消滅の時がついに来た。……我々は、すべてのものが正式に公正に行なわれるように、私的協定によってではなく、法的に政府官庁の監視と指導の下で我々のしっかりした権利を求め、合法的に得ることができるし、そうしたいと思う』と。領主はこれを了承した。(S. 9.) 次いで、彼らは『我々は、騎士領によって従来違法に保有されてきた賦役と地役権の償却に係わることはできず、その無条件の廃止を主張せねばならない』と政府に請願したが、根拠がなかったのでそれは却下された。その後、委員長(Dirigent)、測量技師(Feldmesser)、2人の経済専門家(Wirtschaftsverständige)、と記録係(Protocollführer)の計5人よりなる委員会が8日間活動して、当事者に結果を示し、領主はそれに満足した。当該農民はそれについて『一切の処置を違法かつ不公平として』次々に控訴したが、ついに最上級官庁が、彼らは『合法的決定に服するか、あるいは、騎士領に対する従前の関係のままに留まらねばならぬ』と決定したため、彼らは『一部は土地の割譲によって、一部は即座の現金支払によって、一部は保有地への地代引受けによって償却を実現せねばならなかった。』しかも、かかる『延引』のために彼らは訴訟の費用などとして『数百ターラー』を支払わねばならず、領主や『温和な隣人たち』とばかりでなく、お互にも不和になった。(S. 11.)その上、彼ら『闘争派』(Streitpartei)は『獲得された真の自由時間』を怠けて過ごし、地代も支払えぬほど没落していった。(S. 13.)

これに反して、他の一半の農民は『我々にとって、領主に従来果たしてきた賦役は決して重荷ではなかった。なぜなら、領主はそれを常に、また可能なかぎり軽減しようと努めたからである』と農場領主に述べ、示談を申し込んだ。(S. 10.)『馬鹿な隣人たち』の償却業務が落着いたのち、『賢明な』農民たちの償却業務が開始され、両当事者は代理人を選定した。代理人たちはあの『領邦君主の委員会』の決定を『公平』かつ『正当』と見なし、両当事者もそれに満足した。しかも、農場領主は審議の全費用を負担し、償却金の $\frac{1}{4}$ をも免除してやった。(S. 12—13.)

そればかりではない。『有能で考える農業者』でもある村の牧師は、『保有地の完全に自由な所有者、用益者となった』これら『善良な』農民に次のように教えた。『君たちの

従来の経営は自然と時代に全く適したものではなかった。しかし、それに責任があったのはおそらく君たちの古い慣習への愛着というより——なぜなら、君たちはヨリ良いものの例をすでに周囲に見ているからである——むしろ、抑圧的な騎士領の放牧権（Weiderechtigkeit）である。しかし、今や君たちは耕地（Aecker）の大部分を他人の家畜のために放牧地にしておく必要がもはやなく、君たち自身の家畜の放牧地としても次第にそれを必要としなくなるであろう。というのは、君たちは、藪を根絶し、事情により排水あるいは灌漑し、池の泥・石鹼の廃灰・混合肥料・水肥などを施して君たちの採草地を改良し、その上、耕圃にクローヴァーその他の青刈飼料（Futterkräuter）の一層大規模な栽培を工夫するならば、一層多くの飼料を得て、もはや君たちの家畜を瘦せた放牧地で飢餓に苦しませる……必要がなく、休閑地と刈後地（Stoppel）での放牧の時期を除いて家畜に一年中厩舎で豊富に食べせうからである。素晴らしい家畜頭数とそれにより実現される豊富で効能ある畜養、これが農業の主要な動力である。というのは、土地のヨリ良い耕耘は強力な連畜によってのみ、その強化はヨリ多くのヨリ効能ある肥料によってのみ可能となり、そして、ヨリ合理的で利益ある耕圃方式（Feldersystem）、すなわち耕圃作物（Feldfrüchte）のヨリ自然的な配分と順序、への移行はこの両者によって可能となるからである。従来……君たちは……、常に純粋休閑地・秋播稈実作物（Halmfrucht）・春播稈実作物だけで交代する三圃式農法から全然離れることができなかった。しかし、今は君たちはそれができし、しなければならない。』（S. 14—15.）

牧師は続けた。土壤に応じた作物、土質に応じた耕圃・採草地の配分、すべての耕圃への腐植（クローヴァー、ヴェッチ（Wicken）、スパーリ（Spergel）を含む）の多投、犁耕の強化、土質に応じた播種量、正しい作付順序（Fruchtfolge）、これが『不利益なしには踏み越されない……農業の主要法則の黄金の6ヶ条』である。（S. 15—16.）まず、改良三圃式農法に移行し、例えば面積 80 シェッフエル（以下 S と略記）の耕圃を 8 栽培区（Schläge）に等分して、『私は次の作付順序を定める』。(1) 6 S 純粋休閑地 + 4 S 混合飼料（Mengefutter）栽培休閑地——施肥(2) 8 S ライ麦 + 2 S 小麦——施肥(3) 10 S 大麦(4) 8 S 馬鈴薯 + 2 S キャベツ（Kraut）・蕪菁（Rüben）——施肥(5) 10 S 大麦(6) 6 S クローヴァー + 2 S 豌豆・扁豆 + 1 S 菜種（Rübsamen） + 1 S 苧麻(7) 10 S ライ麦——施肥(8) 10 S 燕麦。そして、次年度には休閑地の夏期栽培（Besömmerung）面積を 1 S 広げて、3 S 青刈飼料（Grünfutter） + 2 S 蚕豆（Pferdebohnen）とする。そうすれば、『二つ

の稔実作物を決して連続させず、その都度、青刈飼料、耕種作物、商業作物を、純粋休閒地は全くなしに、その間に挿入することを原則とする輪栽式農法（Fruchtwechselwirtschaft）』への移行も全然困難ではない。しかし、上記の作付順序でも『悪くないと私は思う。』なぜなら、『私はこのようにして、寝藁（Einstreu）と添加飼料（Beifütterung）に十分なだけの40ショックの冬穀藁（Winterstroh）と60ショックの夏穀藁（Sommerstroh）、青刈のあるいは乾草にされたクローヴァと混合飼料（Gemenge）、馬鈴薯、蚕豆（Bohnen）、キャベツなども十分に得る。しかし、穀物は6倍の収穫率（sechsten Korn⁽³⁾）と計算して小麦12、ライ麦108、大麦120、燕麦60シェップェル、全部で300シェップェルを袋に得、それによって私は家族と厩舎の必需品以外に、市場からも小額〔の売上金〕を取って来ることを考える』からである。（S. 16—17.）

あの『分別ある』農民たちは忠告に従い、『非常に骨を折』った。『すでに数年後には彼らの耕地は非常に素晴らしくなり、豊かな収穫を与えた。その家畜は頭数が増加し、強壮になり、それによって肥料も…増大』し、施肥された採草地は『一層多くの一層良い一番草と二番草』を産出した。最後に、彼らは『各人がそれから其の利益を得る』ために共同地分割も行なった。これらすべてによって、さらにまた商業作物の栽培によって『彼らの金庫はますます一杯』になった。『彼らは常に最も純正で最も素晴らしい穀物を市場にもたらし、また…最も安く販売した』から、都市の住民たちは彼らを『賢明で善良な農民』と呼ぶのであった。そこで、『すでに半ば零落した……彼らの馬鹿な隣人たちも大抵は彼らの例を見習い、次第に困窮を軽くして』いった。（S. 18—19.）

『大体において実際に生じた』上記の物語の後に著者は1832年3月25日のザクセン王国償却法⁽⁴⁾を解説する。『この法律は、所有〔地〕を従来の諸制限から解放し、権利者と義務者とのしばしば抗争する利害を調整するので、非常に重要である。起草の際には他国、とくにプロイセンとヴァイマル、の既存の立法が注意深く利用され、この国特有の諸関係に適合させられた。最終的作成は最近の〔1831年臨時〕邦議会⁽⁵⁾の討論を基礎としている。……かかる立法の必要性は一般に感じられ、認められており、このためにすでに2年前に準備作業も開始された。しかし、自由主義的憲法によって、法律の下での諸身分のすべての差異が完全にまた永久に廃止された現在、大多数の土地保有者が服している自然的自由のこれら諸制限のできるかぎり速やかな消滅を法的に成就することは二重に必要となった。あの権能、あの義務が大部分は、法ではなく恣意と強力のみが事を決めた時代にその

起源を負う』としても、『この関係は後に相互の承認により、契約と慣例により権利になってきており、騎士領所有者は前者をより高い買入金により法律的に所有として獲得し、他方で義務者は、彼の土地に課される賦役・地役権の全額をその獲得の際に間違いなく相殺、控除してきた。そのために、……権利と所有の全概念が踏み付けられないとすれば、その恣意的で無償の解体が規定されるべきではない。』(S. 20—21.)

『この、しばしば不明確で、市民社会の現状に常に矛盾する関係が妥当な方法で廃止されることについては、国家、権利者、義務者は等しい利害を持っていた。国家がそうであるのは、それによって国富が一般に増大し、人間と所有〔地〕の能力が一層利用され、不満と不平の一大源泉が塞がれるからである。権利者がそうであるのは、それによって、強制された賦役を強制された目的のために〔のみ〕使用せねばならぬという、不快と不利に結末がつけられ、無数の紛争が除去され、農場所属民(Gutsangehörige)との友好関係が基礎づけられ、彼の農場経営全体を……一層自主的、合理的に組織する可能性が彼に与えられるからである。最後に、義務者がそうであるのは、それによって彼が、勤勉と努力により彼の人身と所有〔地〕を一切の農場領主的義務から解放して、両者の能力と用益を騎士領所有者と同じく自由に処理することができ、将来は国家への諸負担以外の諸負担に一般に服することなく、こうして、向上した福祉とならんで……人身と所有〔地〕の自由を獲得できるからである。〔しかしながら、〕このような結果は困難なしには、相互の犠牲なしには達成されえない……。すなわち、国家は封主権限による現存の諸制限を放棄し、それによって生じる行政費の一部を負担……せねばならない。権利者は、その利益によって償却の金銭的不利益を補償しうするためには、経営管理の変更という容易ならぬ仕事を引き受けねばならない。義務者は、彼に課された賦役と地役権の廃止の代りに地代あるいは一時金(Capital)として将来支払うべきものを個人的努力によって獲得しようと努めねばならぬ。これらの複雑な関係の調整、法と公正に従って権利者が要求し、義務者が支払うべきものの調査、関係あるすべての第三者の権利の保証があは法律の対象と目的である。それは……本質上、次の二原則に基づく。』(S. 21—22.)

『第1。賦役・地役権の償却および共同地分割は一当事者の一方的提議(Antrag)により行なわれうること。』『一方をその意志に反して現存の諸関係の廃止に強制することは不法、若干の場合には苛酷に見えとしても、法律の成果が多くの場合に全く無にされるべきでないとすれば、この規定は全く不可欠である。なぜなら、怠慢、悪意……〔など〕

が自由意志による協定をしばしば不可能にするからである。』『そのほかに法律は、償却が両当事者の合意の結果としてのみ生じるべき若干の例外を含む。すなわち、(1)非定住者(Unangesessene)の賦役の償却。提議は義務者にのみ帰属する。(2)保有移転貢租支払義務の償却。(3)小屋住農の手賦役の償却。後者については当該の特別委員会(Special-Commission)によって個別に決定されるべきである。なぜなら、かかる手賦役の廃止が権利者にとって非常に攪乱的で不利になるような地方的事情が生じうるし、また他方では、手賦役の代りに貨幣給付を支払うことが貧しい小屋住農にとってしばしば困難、それどころか、不可能であるからである。』(S. 23.)

『第2。賦役と地役権の価値評価は、前者のための時間の消費および後者から生じる義務者の損害によってではなく、権利者にそれから生じる利益によって調査され、償却金額はそれに従って確定されるべきこと。唯一の例外をなすのは128条の規定であって、それによれば一定の場合には評価の基準の選択が義務者に委ねられる。』『償却事業全体の本来的国民経済的利益はこの原則の実施にある。賦役給付者の時間と能力の損失および地役権・牧道(Trift)・放牧の義務などから生じる損害は明らかに、それによって権利者に与えられる利益よりはるかに大きいのである。権利者はあの原則の厳格な施行によって不利益を受けず、義務者は彼の時間、能力、才能のより良い利用と、自由となった彼の土地の収穫の向上とによって、前者に与えるべき補償たる貨幣地代あるいは一時金を支払いうるようになるであろう。』(S. 23—24.)

償却法と同時に地代銀行(Landrentenbank)⁽⁶⁾法も公布された。それによれば、『義務者によって支払われるべき償却地代(Ablösungsrente)を彼から直接受け取るか、それとも、これを国家に譲渡し、それと引換えに、 $\frac{1}{6}$ だけ引き下げられた金額について、 $3\frac{1}{2}\%$ で資本化される地代証券(Rentenbrief)を受け取るかは、各権利者の自由である…。』

『権利者は、4ターラーの地代を国家に譲渡するならば、その代りに、100ターラーの $3\frac{1}{2}\%$ 利付き地代証券を受け取るものであり、彼はそれ以後それを任意に処分しうる。それに対して国家は義務者から4ターラーの年地代を受け取る』から、残りの $\% \%$ は『管理費と地代の未払、損失の充足』と『すべての地代証券(Rentenscheine)の順次的な償還(Tilgung)』のために使用される。『その性質において全く新しい、そして独特のこの施設は次の利益を与えると期待される。(i)権利者は義務者との一切の関係から離れ、したがって、以前の諸義務の記憶と新しい不和の可能性が一切完全に消滅すること。(ii)権利者はそれによ

て、管理費と未払・徴収不能 (Caducitäten) から生じる損失の費用とに対して保証され、彼の地代についての現金化された一時金を即座に実現しうること。(イ)それによって償還基金 (Amortisations-Fond) が作られ、そのために一定年月の後には、義務者に課される地代支払が完全に終結するであろうこと。この地代義務の一層迅速な償還は疑いなく非常に望ましいので、これが国家と義務者との分担によって目指されるべきではないかどうか、が問題となる。これはもちろん次の邦議会ではじめて審議され、解決されうる事柄である。』(S. 24—25.)

さて、この法律から『生じうるし、生じるであろう最も主要な利益』は次のとおりである。『(イ)権利者について。彼は一方的提議によって彼の経営管理と権能との不確実さを終らせうること。彼はそれによって、非常にしばしば生じる、農場所属民との不和を永久に除去できること。義務者の地代は25倍で資本化されるべきこと。1年の地代未払の場合には一時金が支払われるべきこと。地代銀行を通じて地代の資本価値が即座に実現され、騎士領所有者の裁量により債務の支払、農場の改良その他に使用されうること。建築賦役 (Bau-Dienste) の償却により、建築の種類に関する今までの、しばしば非常に厄介な制限がなくなり、それに対して年々一定金額が与えられること。農業上の妥当な原則に従って放牧権 (Hutungsbefugnisse) に対して完全な補償が行なわれること。賦役と地役権の償却によって、すなわち、権利者のために義務者に課されるこれら諸負担の廃止によって農場所属民に対する騎士領所有者の道德的地位が大いに改善される……こと。』(S. 25—26.)『(ロ)義務者について。彼は、一部は共通に一部は義務者にのみ帰属する償却の提議を通じて、勤勉と努力により対物的・対人的諸義務から解放され、完全に自由な土地所有者になりうること。地代銀行によって一定期間の経過の後、償却地代の支払から解放される見込みを持つこと。法律に基づく優先雇用権 (Vormiethe) は即座に、すべての奉公強制 (Dienstzwang) は償却と同時に、そしていずれにせよ1836年に、完全にかつ無償で廃止されること。償却手段として一時金、貨幣地代、土地のどれを選択するかは彼に委ねられること。償却対象として調査されるべき賦役と奉公の価値は、すべての反対給付を控除した後半だけ引き下げられるべきこと。すべての不確定 (ungemessen) 賦役は確定 (gemessen) 賦役に転換されること。建築賦役 (Baufrohnen) の価値の調査においては、漸次的時間経過の結果として必要になる修理と新築のみが10%を控除して考慮され、火事、水〔害〕、嵐、戦争によって惹起される建築は全く評価外に置かれること。保有移転貢租

ザクセン「九月騒乱」期の同時代パンフレットにおける農業・土地問題（Ⅱ） 207
(Lehnwaare) の償却の際には場合の数は引き下げられ、地価の20%が控除されること。』
(S. 26.)

『これ〔償却法〕によって同様に規定された共同地分割、および、現在は勧められるのみであるが、後には法律的に定められるべき土地の団地化 (Zusammenlegung) には権利者と義務者が等しく関係する。これら二つの措置からは個々人にとっても農業全体にとっても最大の利益が生じるであろうからである。』 (S. 26.)

『この法律、都市条令、次の邦議会に提出されるべき村落自治体条令草案と将来の公課制度によって行政法の最重要の部分はかなり完成される。上述の諸法律のうちどれが最重要であるかは言い難い。なぜなら、都市条令と村落条令によって自治体の全体的利害および財産の処理が保証され、完成されるし、新しい間接税制度は現存の不平等⁽⁸⁾の清算と不可欠の国家負担への全国民の比例的寄与とを目指さねばならないとすれば、この法律は一切の土地所有を自由にし、個々人と国家全体の福祉を増大させ、こうして国力を内外に強化するであろうからである。そのためにすべてのザクセン人、すべての権利者と義務者…は一切の賦役と地役権の償却の急速な成就を力のかぎり促進するであろう。』 (S. 27.)

(註)

- (1) *Anonymen-Lexikon*, Bd. 2, Weimar 1903, S. 205 ; Bemmman a. v. O., I/2, S. 32 ; Gross, *Sachsen*, S. 112.
- (2) *Neuer Nekrolog der Deutschen*, Bd. 14, Weimar 1838, S. 146—151. そこに挙げられた著作で、農業・土地問題に関連するものは、(i) *Über das Friedens- und Segenswerk der Fronablösung*. (ii) *Kurze Beschreibung des Flachsbaues. Zunächst f. das Voigtland*, Plauen 1821, である。発行地・発行年の記載がない (i) が本書を意味するのかもしれない。また、*Nekrolog* の言う「経済協会」は、本文にある「フォークトラント農業協会」のことであろう。
- (3) 農民たちはかつては『最も幸運な年においてさえも4倍以上の収穫率を達成することは稀』であった。(S. 18.)
- (4) 『1832年3月17日付、償却および共同地分割に関する法律』。(Gesetzesammlung von 1832, S. 162—266.) ただし発布は3月26日である。文献としては、Gross, *Sachsen*, S. 103—110, のみを挙げておく。なお、本パンフレットの著者には、関

連論文 “Ueber das kgl. sächs. Ablösungsgesetz vom 25. März 1831”, *Sachsenfreund*, 1832, S. 116f., 130—132, がある。

(5) 本稿 (I), 本誌 5 巻 1 号, 135 ページ註(3), 参照。

(6) 『1832年 3 月 17 日付, 地代銀行の設立に関する法律』。(Gesetzsammlung von 1832, S. 267—272.) 文献としては, Gross, *Sachsen*, S. 139f., のみを挙げておく。

(7) 『1832年 2 月 2 日付, 一般都市条令の制定と地域的条例 (Statuten) の作成における手続きに関する指令』。(Gesetzsammlung von 1832, S. 16—110.)

(8) 騎士領免税特権を主要争点とする直接税制度のことであろう。その前史については, 拙稿, 「18世紀末・19世紀初のザクセンにおける租税論争」 (I) (II), 本誌 1 巻 3・4 号, 4 巻 1 号, 参照。